

199900041A

厚生省厚生科学研究費特別研究事業
「小児における脳死判定基準に関する研究班」

小児における脳死判定基準

平成 11 年度報告書

目 次

第 I 部 わが国における小児脳死診断の調査

はじめに	1623	(9) 無呼吸テスト	1629
対象および方法	1623	(10) 脊髄反射	1630
(1) 方法	1623	(11) 画像診断	1630
(2) 調査期間	1623	(12) 脳波・脳幹聴性誘発電位	1630
(3) 調査対象施設	1623	(13) 脳血流検査	1630
(4) 調査票および基準案	1623	(14) 年齢と各種検査の実施状況	1631
結果	1625	(15) 各種治療薬の使用状況	1631
(1) 調査票回答状況および 解析除外例	1625	(16) 脳死判定間隔	1631
(2) 解析対象症例	1626	(17) 第 1 回脳死判定結果と第 2 回 脳死判定結果との変動	1634
(3) 検査項目による症例の分類	1626	(18) 脳死判定時より心停止に 至る期間	1634
(4) 症例の背景	1626	(19) 剖検	1634
(5) 脳死診断時の生命徴候 (バイタルサイン)	1627	(20) 脳死後心停止までに長期間を 経過した症例の検討	1634
(6) 意識状態	1628	考察	1635
(7) 瞳孔径	1628	総括および結論	1637
(8) 脳幹反射	1628		

第 II 部 小児脳死の診断と判定基準

はじめに	1640	(1) 体温	1645
小児脳死の特徴	1640	(2) 血圧	1645
各国の判定基準	1641	(3) 心拍	1645
小児脳死判定の前提	1643	2. 神経症状	1645
1. 脳死判定対象例	1643	(1) 意識	1645
2. 除外例	1643	(2) 瞳孔	1646
(1) 年齢による除外	1643	(3) 脳幹反射	1646
(2) 体温, 薬物の影響による除外	1644	(4) 脊髄反射	1647
(3) 疾患による除外	1644	3. 脳波	1647
小児脳死判定の考え方	1645	(1) 脳波の必要性	1647
1. 生命徴候	1645	(2) 小児脳波の特徴	1647

(3) 脳波の記録法と判定基準	1648	脳死判定基準	1653
4. 呼吸	1648	1. 対象例	1653
(1) 二酸化炭素による		2. 除外例	1653
呼吸中枢刺激	1649	(1) 年齢による除外	1653
(2) 無呼吸テストの留意事項	1649	(2) 体温,薬物の影響による除外	1653
5. 判定間隔	1650	(3) 疾患による除外	1653
6. 長期脳死	1651	3. 判定上の留意点	1653
7. 補助検査	1651	4. 必須項目	1653
(1) 誘発電位	1651	5. 判定間隔	1654
(2) 脳循環・代謝検査	1652	おわりに	1654

199900041A

以降は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、
下記の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

「研究成果の刊行に関する一覧表」

厚生省小児における脳死判定基準に関する研究班平成11年度報告書
小児における脳死判定基準.

飯沼一字 小川雄之亮, 鴨下重彦, 阪井裕一, 佐藤博美, 塩貝敏之,
島崎修次, 杉本壽, 竹内一夫, 武下浩, 田中秀治, 二瓶健次, 貫井英
明, 松本悟, 宮坂勝之, 門間和夫, 渡邊能行
日本医師会雑誌 124巻11号 Page1623-1657(2000.12)